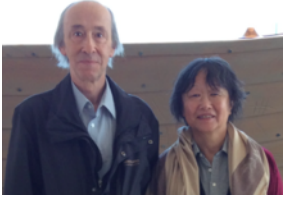


# イスラエル旅行記

ガリラヤ湖と北に白い頂きを聳えるヘルモン山 2814m

## Mandel blüht, Mandel blüht!

Huwe Hisae , Achim



Mandel blüht, Mandel blüht!  
Februar-Pracht in Israel!  
Rosa Wolken überall,  
Nebel oder Wüstenstaub?  
Süßer Duft vom Blütenschäum.  
Jesaja, lass uns gehen,  
Schöpfers Werk anzusehen! (mit der  
Melodie SAKURA)

Aus dem Busfenster die Mandel-Blüten betrachtend, fuhren wir durch Israel. Dabei entstand spontan dieses Lied, das wir oft zusammen gesungen haben. Sicherlich hat Jesaja auch mit Freude sie betrachtet. Leuchtend gelbe Senf-Blüten, rosafarbige wilde Alpenveilchen, rote Anemonen und verschiedene unbekannte Blumen blühten auf dem frischen, grünen Teppich und sie alle priesen den Schöpfer.

Es wurde gesagt, dass die Regenperiode einen Tag vor unserem Ankommen endete. Danke Gott, dass du uns dieses Timing punktgenau bereitet hast! Und danke Pastor Meyer, dass Sie dies vermutlich, unsere Reise so geplant haben!

„ Seht, wir gehen hinauf nach Jerusalem.  
Lukas 18,31a “

Mit diesem Herrenwort sind wir aus Galiläa im Jordan-Tal ans Tote Meer und hinauf nach Jerusalem gefahren. Gleich an dem Abend habe ich mit einigen Leuten die Klagemauer besucht und gebetet. Ich glaube, dass Gott dieses Gebet gleich erhört hat. Via Dolorosa!!

Mit Schmerz humpelte ich in Jerusalem. Dabei habe ich so viel Liebe von den mitreisenden Schwestern und Brüdern im Herrn gespürt. Vielen Dank!

Seit dieser Woche beginnt die Passionszeit! Jedes Jahr höre ich dann die 'Matthäus-Passion' sowie die 'Johannes-Passion' mit deutschem Flair. Aber dieses Jahr kann ich beide mit dem Schmerz aus Jerusalem spürend hören. Außerdem haben wir während dieser Reise jede Mahlzeit genießend viel zu viel gegessen. Darum werden wir in dieser 40-tägigen Fastenzeit sicherlich weniger essen. Und an Ostern, der Auferstehung Jesus, hoffe ich ohne Krücken aufstehen zu können. Nochmals vielen herzlichen Dank und in der Hoffnung, dass wir wieder zusammen nach Israel reisen werden.



## アーモンド～、アーモンド!

フーヴェ久栄、アヒム

アーモンド～、アーモンド!  
二月のイスラエル、見渡す限り  
霞か雲か においぞいずる  
イザヤ、イザヤ、 見に行かん!  
(さくら さくらのメロディーで。)

車窓から見渡す限りの桜色の満開のアーモンドの花を眺めつつ、自然と上記の歌を皆さんと歌いました。イザヤも愛でたことでしょう。イエス様がたとえに使われた黄色いからしの花、ピンクの野生シクラメン、真っ赤なアネモネなどなどが若草のじゅうたんの上に咲いて、神様が創られた春を褒めたたえていました。



私達がイスラエルに着く前日に、雨季が終わったそうです。そのように計画して下さった神様に感謝!そして、それを想定してこの旅行を計画して下さいましたマイヤー先生に感謝です。

『私たちはエルサレムに上っていく。ルカによる福音書 18:31a』

このみことばと共に私達一行はガリラヤ湖畔からヨルダン川沿い、死海を経て、エルサレムに上りました。その晩すぐに「嘆きの壁」での私の祈りに主が即答して下さいました事に感謝です。が、肉体的には少々の『受難』、難儀な日常生活が始まりました。

時は、今週から受難節!この時期にいつも『マタイの受難曲』『ヨハネの受難曲』をこれまでドイツ風に聞いていましたが、今年はエルサレムで受けた足の痛みを引きずりつつ、受難曲を格別な思いで味わえる受難節です。

美味しすぎて、食べ過ぎた一週間!水曜日からのFasten、準断食で40日を過ごし、イースターには、社会的復活!を期待しています。皆様の愛に感謝でいっぱいです。エルサレムの主の御跡を拝見していませんので、次回を楽しみに致します。再度皆様と聖地旅行できますようにと、アヒムも私も心から願っています。皆様との再会を楽しみに致します。





## モリヤからゴルゴタを経て園の墓へ

安藤 廣之

ミュンヘン日本語キリスト教会



皮なめしシモンの家の前で

私にとって初めての聖地旅行。感動の連続でしたが、一つだけ教えられたことを挙げるならば、私達とは『取り戻された神の子供』であるという実感です。

私達は旅行の5日目にアブラハムが住んでいたベエルシェバのビジターセンターでアブラハムの短編映画を見ました。あの様な映画はこれまで何度か

見たことがあり、それ自体は何も特別な印象はありませんでしたが、アブラハムが今のエルサレム（モリヤの山）で主に言われた通りにイサクを捧げようとし、それを主が止める場面が心に残りました（レンブラントのその場面の絵画がミュンヘンの美術館にあることもあります）。

そして次の日、私達はヴィア・ドロローサを通過してゴルゴタの丘（聖墳墓教会）に行きました。そして



園の墓

その次の日には、マイヤー先生のお計らいによって（数人で）園の墓にも行くことが出来、イエス様が復活した墓とはどのようなものであったかを見る事ができました。

アブラハムが大きな試みの中で、言われた通り約束の子イサクを捧げようとしたが、ヘブル人への手紙によるとアブラハムはその時既に復活信仰をもっていた事が分かります。イエス・キリストは言うまでもなく大きな痛み、苦しみを経て十字架に掛られました。しかし3日目の朝には約束通り復活したのです。



アブラハムの井戸、ベールシェバ

私はこの一連の旅を通して、本来神の子などではあり得ない極東の島国に生まれた自分が（キリストに代わって頂いたことによって）神に取り戻された！罪が赦された証拠に復活されたイエス様が今も共にいて下さる！それは私にとって霊の故郷を垣間見たような体験だったと思えます。

今日、イスラム教モスクとしての岩のドームが立つモリヤの山で主が示されたことが、同じ場所でイエス・キリストを通して神は実現されたのです！私達もこの世の試みの中で、しかしその約束（恵みの選び）の故に主に取り戻して頂いた神の子供であるということ、そんなことが自分の人生に改めて刻まれた旅となりました。心から感謝し、御名を褒め称えます。

## 聖書がずっと身近に！

佐々木 千恵子

シュトゥットガルト日本語キリスト教会

初めてのイスラエル、感動でした。

イスラエルから戻ってきて、イスラエルの空気を吸ったせいかイスラエルの国、聖書が以前よりずっと身近に感じられるようになりました。

この旅行を企画してくださったマイヤー先生、そして、スイス日本語福音キリスト教会の方々へ感謝します。また、団長さんやみなさんのたくさんのご奉仕しに感謝いたします。ドイツ語通訳も感謝でした。日本語を話せない主人アンツカも、暖かく仲間に入れてくださり、又、イスラエルに行きたいと言っています。

ちょうどアーモンドの花満開で \*さくら さくら\* の替え歌は最高でした！！いざや～いざや～！イザヤだ！ーっつと笑！

ずーと行ってみたいと思っていたガリラヤ湖では、ガリラヤ丘陵地に沈む雄大な夕日を眺めながら 全湖をみわたしました。死海の夕日も、荒野がピンクに染まり、水面の藍色との絶妙なるバランス、、。死海文書も感動を覚えました。ほかにも、感動したことは一杯あります。

素晴らしい旅となったのは参加者みなさまのおかげでもあります。ありがとうございました。そして何よりも 良い天気も何もかも導いてくださった主に感謝と賛美を捧げます。心より感謝して





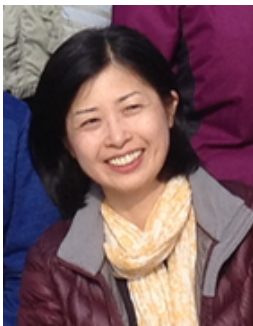


死海

## イスラエル旅行に参加して

平田仁美

ミュンヘン日本語キリスト教会



昨年のキリスト者の集いで、イスラエル旅行の募集チラシを見て、すぐに参加を決めました。イスラエルは地上の人生の間で一度は行ってみたいと思っていた場所。日本から行くよりもヨーロッパから行くほうが近いけれど、自分だけで行くことはなんだか難しそうです…それがちょうどドイツにいる間に、日本語教会が主催するツアーがあるなんて、願ったりかなった

りだったのです。

主人も一緒に行ければ良かったのですが、仕事の休みが確実に取れるかがはっきりせず、「いつか二人で行くための下見だと思ってしっかり見てくるように」とのお達しを受けて私一人だけで参加することになりました。

今まで、聖書で読み、聞いていた場所に実際に立つことができたことは、格別の体験でした。特にガリラヤ湖の美しさは心に深く刻まれました。しかし、私は同時に「神さまはこの土地だけにおられるのではない」とも思いました。旅の最後に「巡礼証明書」をいただきました。とても嬉しい記念に残るプレゼントでした。しかし、果たして自分は「巡礼」をしたのか？という疑問も起こりました。

イスラエル、そしてエルサレムはとても特別な場所です。旧約聖書の登場人物が実際に生きていた場所、イエス様が地上の生涯を過ごされた場所、十字架にかかれたエルサレム。しかし、私はその場所で「あること」を発見しました。エルサレムに来る前、「ピア・ドロローサを歩きながら私は感激のあまり涙にくれるのだろうか？」と思っていました。しかし、実際にピア・ドロローサを歩いている私の心にはそれほどの感激が起きなかったのです！！それは私にとって大きな発見でした。そして私は「イエス様はエルサレムで十字架にかかれ、今は復活されて神様の右の御座におられる」ということを改めて思い起こしました。「ああ、イエス様が今いらっしゃるのここではないのだ」と。

実は私が今回の旅で一番神さまの臨在を強く感じたのは、Beth-Elを訪問した時のことでした。イザヤの40章1節がドイツ語とヘブライ語で掲げられた部屋に入ったとたんに、私の心は

揺り動かされました。神さまの愛が満ち溢れていると感じたのです。マイヤー先生の説明を聞きながら、私は自分の感じたのは「この部屋に満ちている、神さまの愛を実践する兄弟姉妹の働き」なのだと思います。そう、神さまはどこにおられるか？と問われれば、神さまはどこにでもおられるのですが、ではその神さまの存在をどこで知ることができるのか？といえ、それは神さまにある愛が現されているところなのです。

今回の旅行で神さまの愛が強く現されていたと私が感じるもう一つのこと、ツアーのメンバー間の交わりです。スイスの教会からの参加でない私は、最初、知っている方はほんの少ししかいませんでした。しかし、皆さんとても親切にしてくださいました。

特に、ドイツ語がほとんど話せない私に、ドイツ語を話すメンバーの方が辛抱強く会話をしてくださったことに、私は感激しました。

ドイツ人もスイス人も、日本人も、ユダヤ人からみればみな異邦人です。その異邦人である私たちが神さまの憐れみによって、神の民とされたこと。そして、その「台座」であるユダヤ人の方に対して愛を示すことの大切さ。そして、異邦人であれ、ユダヤ人であれ、神さまによる愛が示されるところに神さまの臨在を見ることができる。

私が今回の旅で学んだことです。単純に観光地としてもイスラエルは素晴らしいということもわかりました。食べ物もおいしく、また聖書に関連していない場所でも、歴史があり見所も満載。また機会があればぜひ訪れたいと思います。

引率の労を取ってくださったマイヤー先生、団長として事前の準備段階からお世話になった原兄、素晴らしい交わりをくださったメンバーおひとりおひとり、そしてガイドの順子さんと運転手のメナヒムさん、そしてなによりも神さまに心から感謝しています。



Haus Beth-El のスタッフのみなさんと







## 欧州生活の完璧な締めくくり

レオナルド滝井  
バーゼル家庭集会



はじめに、この旅を忘れられない素晴らしいものにしてくださったすべての方に心の底から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました！今回のイスラエル旅行は、間違いなくこれまでの私の人生の中で最も素晴らしい旅、最も素晴らしい経験となりました。

これまで“イスラエルに行こう”と考えたことがありませんでした。イスラエルに実際に行き聖地を巡るというアイデアが、単純にこれまで頭の中に出てこなかったのです。しかしマイヤー先生がイスラエル聖地旅行を計画されていると聞いたとき、私たち（裕希恵と僕）はとても興奮しました。ついに自分自身があの約束の地を訪れるということを実感することができたのです。そしてそれは現実になりました。

クリスチャンが必ずしもイスラエルを訪れなければならないとは思いませんが、もし機会があり意義を持って訪れることができるのであれば、とても推奨します。自らの感性をもって経験し、感じ、見て、聞いて、香ることは、大変大きな衝撃です。多くの方が旅の途中でもおっしゃっていましたが、聖書を読む際やメッセージを聞く際、より鮮明で直接的に主の御言葉とコミュニケーションをとれるようになりました。頭でも心でも、以前よりもよく理解しイメージできるようになったと感じています。



そして私にとってイスラエルの人々の信仰に触れたことも感動を覚える経験となりました。もちろんイスラエル国内には宗教的ではない場所や人々も在りますが、国内の日常生活において宗教が大変重要な役割を果たし強い影響力を持っていること

がうかがえました。この点において、ヨーロッパやブラジルとは大きく異なっています。

またこの旅の中で、クリスチャンに囲まれて日々を送ることができたことも恵まれたと思います。皆さまと様々な経験を共有することができて、感動を覚える時を過ごすことができました。もしかしたらその時間は、この旅の中で最も良かった点だったかもしれません。旅が始まる前は、私たち二人（裕希恵と僕）はグループの中で最年少であるため、皆さまとうまく馴染めるだろうか、ぎこちなくなってしまうのではないかと気がかかっていた。しかし参加者の皆さまの心の広さ、やさしさによって大変素晴らしい交わりを持ち馴染むことができました。



最後に、私には自分への問いが残されています。イスラエルでのすべての経験と機会をもって、自分は何をすることができるだろうか？どのようにして自分の周りの人の元へ持ち帰ることができるだろうか？イスラエルへ行くことができた事だけでなく、私の故郷ブラジルへ完全帰国する直前のこの完璧なタイミングで参加することができたことに対し、感謝の気持ちと主の恵みを感じます。

完全帰国を目前に控えタイトでなかなか融通の利かないスケジュールであったのに、この旅程は完璧にマッチする日程でした。私の5年半のスイス／ヨーロッパ生活の完璧な締めくくりとなりました。

主よ、感謝します！







ユダの荒野と死海:マサダからの眺望

## Israel-Reise Leonardo Takiy

Zu allerersten möchte ich meine wahren und tiefen Gefühle der Dankbarkeit an allen Mitbeteiligten aussprechen und an alle, die diese wunderbare und unvergessliche Reise ermöglichten. Vielen herzlichen Dank! Die Reise nach Israel war sicher eine der grössten Reisen und Erfahrungen meines Lebens. Ich hätte nie gedacht, dass ich Israel besuchen würde. Die Idee, nach Israel zu gehen und das Heilige Land zu besuchen, war einfach nicht in meinen Gedanken. Als Meier-Sensei aber über die Israel-Reise mit uns (Yukie und ich) erwähnte, wir sind mit der Idee sofort aufgeregt. Ich konnte mich dann endlich vorstellen, das versprochene Land zu besuchen. Und ... es wurde Wirklichkeit.

Ich glaube, ein Christ muss nicht unbedingt Israel besuchen, aber für alle, die die Mitteln und die Gelegenheit haben, kann ich es nur stark empfehlen. Um in dem Ort zu sein, zu fühlen, zu sehen, zu hören, zu riechen, zu erleben mit eigenen Sinnen lässt einen grossen ... auf? Sie. Als viele während der Reise ausgedrückt haben, jetzt, wenn ich die Bibel lese oder auf Predigten höre, habe ich den Eindruck, dass Gottes Worte eine klarere und direkte Kommunikation mit mir haben. Ich fühle, dass ich jetzt besser Gottes Worte verstehen, sehen, hören, riechen, fühlen und erleben kann.

Für mich war es auch sehr berührend, die Religiosität der Menschen in Israel zu erleben. Natürlich gibt es nicht-religiöse Orte und nicht-religiöse Menschen in Israel, aber im Allgemeinen scheint es doch, dass die Religion eine grosse Rolle im täglichen Leben spielt. Ganz anders als das hochsäkularisierte Europa oder sogar Brasilien...

Auch ein Segen war die Gelegenheit, eine Routine mit und herum anderen Christen zu haben. Die Gelegenheit, mit anderen Christen persönlichen Erfahrungen mitzuteilen, habe ich sehr geschätzt. Vor der Reise, weil wir (Yukie und ich) die Jüngste der Gruppe waren, dachte ich, dass es ungewöhnlich und sogar etwas "ungünstig" sein könnte. Doch dank der Offenheit und Freundlichkeit von allen konnten wir alle zusammen mischen und gut integrieren. Vielen Dank!



Schliesslich bleibt eine Frage an mir. Mit den Erfahrungen, die ich in Israel Gelegenheit haben konnte, was kann ich damit tun? Wie kann ich es weiter geben, wenn ich zurück nach Hause gehen? Kann diese Erfahrung etwas mehr werden als nur eine persönliche Erweiterung?

Ich fühle mich nicht nur dankbar und gesegnet, dass ich in Israel sein konnte, aber auch dass ich rechtzeitig Israel besucht konnte, kurz vor ich mich wieder nach Brasilien zurückgezogen habe. Zeitlich hat diese Reise perfekt zu meiner engen und relativ inflexiblen Agenda gepasst. Es war einfach ein perfekter Abschluss meinen 5 und halb Jahren Lebenszyklus in der Schweiz/Europa. Dank sei Gott!

First of all, I would like to express my true and deep feelings of thankfulness to everyone involved and everyone who made this wonderful and unforgettable voyage possible. Thank you very much! The trip to Israel was undoubtedly one of the greatest voyages and experiences of my life. I never thought I would go to Israel. The idea of going to Israel and visit the Holy Land just simply never passed through my mind. But when Meyer-Sensei mentioned about the Israel-Reise with us (Yukie and I), we immediately became excited with the idea. I then, finally, could imagine myself visiting the Promised Land. And... it became reality.

I believe it is not necessary for Christians to go and visit Israel, but for the ones who have the means and the opportunity, I just simply highly recommend. To be able to experience, feel, see, hear and smell with your own senses does leave a great impact on you. As many expressed during the trip, now when I read the Bible or listen to preachings, the words of God have a more clear and direct communication with me. I feel I am better able to see and imagine it in my mind and spirit.



For me, it was also touching to experience the religiosity of the people in Israel. Of course, there are non-religious places and non-religious people in the country, but generally religion does seem to play a great role in daily life. Quite different from the highly secularized Europe or even Brazil...

The opportunity to have a routine surrounded by Christians was also a blessing. To be able to share experiences with Christians was touching for me. Perhaps even, the highest point of the trip. Before the voyage, since we (Yukie and I) were the youngest of the group, I thought it could be a little special or even an "awkward" situation. However, thanks to everyone openness and kindness we could all mix and blend well together. Thank you everyone.

Finally, a question remains for me. With all the experiences I had the opportunity to have in Israel, what can I do with it? How can I return it to others around me back home? Can this experience become something more than only a personal enlargement?

Not only I feel thankful and blessed to be able to had been in Israel, but also with the perfect timing in visiting Israel just before moving back to my homeland, Brazil. Schedule-/time-wise, this voyage fitted perfectly with my tight and relatively inflexible agenda. It was like a perfect closing of 5 years and an half life-cycle in Switzerland/Europe. Thank you, Lord!





ソコ谷の野生のシクラメン

## イスラエルの地で再び 自らの信仰に立ち返る

佐藤裕希恵

バーゼル家庭集会



スイスに留学し始めて今年で6年目、これまでヨーロッパの国々を訪れる機会に多く恵まれましたが、地中海東岸の地にはこれまで一度も足を踏み入れたことがありませんでした。今回の旅で触れた空気、見た空、踏んだ土、味わった食事、出会った人々は、これからのクリスチャン人生、聖書と御言葉の理解を更に深めてくれる貴重な経験となりました。

ました。

そして食事の席をはじめ参加者の皆さまとの交流はとても心安らぎ、また信仰を高めあうことのできる大変有意義な時間でした。このような機会を与えてくださり、また主を賛美しあうことのできる“肉の心”を与えてくださった偉大なる主の御名を賛美致します。

旅の前半にヨッパの港とカイザリアの海を訪れたときには、主がペテロに語りかけ、私たち異邦人にも福音の御手がのびされたその地をこの目で見ることができ、感動と共に自分の頭の中にあった使徒の働き10章のお話しのイメージが更に色鮮やかに輝きました。ガリラヤ湖の景色や初めてエルサレムの街を見たときなど、行く先々で感動を覚えました。この感想文では特にマグダラとベエル・シェバでのことを書こうと思います。

マグダラでは“イエス様がほぼ確実にここで教えられたであろう”といわれる会堂の遺跡を訪れました。案内して下さった研究員の方はメシアニックジューの方でした。救世主イエスを信じ、ユダヤ人的アイデンティティを持って信仰生活をおくっていらっしゃる、“完成されたユダヤ人”ともいわれる方です。彼女が私



たちにイエス・キリストを信じていると告白してくれた時に胸に感じた熱いものはひとしおでした。

“兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。”（ローマ人への手紙11,25~26a）

ヨッパでの体験、マイヤー先生が繰り返しおっしゃっていた「ユダヤを愛すること」、すべてがこの瞬間の一つになって、神のご計画の偉大さ、その恵み深さに心が震えました。

そしてアブラハムの街ベエル・シェバのピジターセンターでは、実物の井戸を見る前にアブラハムのお話しのビデオを鑑賞しました。息子イサクを生贄として屠る寸前に御使いがそれをお止めにな



るシーンでは、お話しも結末も知っているものなのに、神の恵み深さ、そしてアブラハムの信仰心の強さに改めて心が揺さぶられ、涙が止まりませんでした。今私は人生の大きな分岐点に立っています。自分自身に今与えられている試練に対して、先が見えずとも主のみを信じ、より頼んだアブラハムの信仰に励まされ、涙腺がゆるんでしまいました。

神により頼むこと。神を信じること。すべてを神の御手にゆだねること。神はすべての人に深いご計画をもっておられ、神を求めものには必ず御手をのばして下さるということ。この聖地旅行では、イスラエルの地を訪れ学び聖書の理解を深めるだけでなく、自らの信仰に立ち返り、今一度主を信頼してイエス様と共に歩んでいきたいという決意を新たにすることができました。

“主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。”（詩編37,4~5編）  
ア—メン







カイザリア

## 自分の五感で体験！

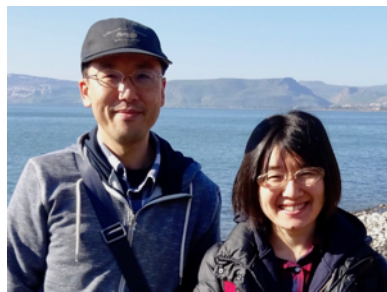
中山勝也

ウィーン日本語キリスト教会

私がイスラエルに行き驚いたことは、イスラエルがこんなにも地形の変化に富んだ場所だということでした。聖書に書いてある地を、自分の五感で体験できたことがこの旅行の一番の収穫でした。

旅行中のメモをまとめようとしたときに膨大であることに気づき、楽しくも本当に濃密な旅行であったことを改めて感じさせられました。旅行の体験を回想しながら、今後さらに聖書を読み進めたいと思います。オーストリアの寒い冬から春のイスラエルに来て、春の陽気を取って少し得した気分を味わいました。

参加者の皆様とのお交わりも良い思い出となりました。この旅を主に感謝したいと思います。



## 恵み豊かなひととき

中山雅子

ウィーン日本語キリスト教会

山頂に雪が残る山々、肥沃な平野、砂漠地帯、湖、海辺、これら全てが国内で見られるイスラエル。そんなバラエティに富む景色もさることながら、昔から今に至るまでの様々な時代が混在している様子も印象的でした。特に聖書にゆかりのある地を訪れた際に昔と変わらないと聞くと、感慨深さもひとしおでした。

また、エルサレム在住のガイドさん、ユダヤ人の運転手さんからも気候や土地、文化などの背景をはじめ、日々の暮らしや習慣、関係する聖書箇所に至るまでの詳細なお話をたくさん聞いたこともとても興味深かったです。さらに、朝晩のマイヤー先生による聖書のお導きとお祈り、共に旅をした皆様のお証しからも励ましをいただくなど、実に恵み豊かなひとときを過ごすことができました。

聖地旅行という貴重な経験の機会を与えてくださった神様に感謝いたします。

ヘロデオン

## 神様に愛されている民族

川本真由美

スイス日本語福音キリスト教会



今回の聖地旅行はヘロデ王の足跡を探る目的だったので、とても興味深かった。というのは彼は自分の妻子、親類その他大勢を殺害していたため、私は彼が精神の病でも侵されているのかと思っていたからである。いやいや、それは思い違いであった。彼が建てたカイザリア、マサダ、ヘロデオン、神殿の壁などを見ると、あまりにも壮大、巧妙で驚くばかりだったからである。

2000年前のクレーンも何もない時代にこんなものが作れるのか？？驚いた！そうであれば、今はない神殿はどのようなものであったのだろう。さぞかし荘厳で目を見張るばかりの神殿だったに違いない。カイザリアの街は基盤の目に作られて、上下水道施設もあったとか。その下水の処理も驚いた。潮の満ち引きで海に流されていたなんて！

カペナウム、マグダラではイエス様が2000年前にこ

こに立っていらした！と思うと、イエス様のお隣にいる私を想像していた。そこにいらっしゃるイエス様はやさしいお方だったのだけど、エルサレムでは悲しみ、苦しみ一杯のお方が心に浮かんできた。だけどオリーブ山に立って、ここにまたイエス様がおいでになられると思うと感無量だった。

死海水浴は楽しかった。私は泳げないのだけど、頭を起こしても浮かぶのには感動した。湖の底も塩。波打ち際も塩。塩。塩。また死海文書と現在の聖書の言葉が全く同じというのも、神様の驚くべき御業。

今回の旅で聖書がもっと身近に理解を持って読むことができることは、一番の収穫である。またイスラエルは気候がよく作物もよく採れ、ユダヤ人が何度も何度も迫害にあっても聖書の預言通りに建国され、人口が爆発的に増加し建設ラッシュを見ると、神様に愛されている民族なのだと実感することができる。岩のドームは崩され、第3の神殿建設はそれほど遠くないことのように思う。





ヘロディオンから眺める西岸パレスチナ自治区

## イスラエル聖地旅行2017 旅行記

原 憲二

スイス日本語福音キリスト教会

イスラエル聖地旅行は2回目ですが、またもや感動の旅となりました。イスラエルの旅行はなぜ特別な感動を私たちに与えてくれるのでしょうか。一つには、行く先々の聖地に立つことによって、聖書のことばが身近に迫ってくるからなのでしょう。また今回、私にとって特に考えさせられたのは私たちクリスチャンとユダヤ人の関係でした。



テルアビブの空港に到着後、すぐヨッパへ、そして翌日はカイザリアへと異邦人伝道の出発点とされるこの二つの場所に訪れることができたことは、異邦人である私たちクリスチャンをまずイスラエルの玄関で歓迎してくださっているようで感謝でした。

今回の旅行では、企画をしてくださったマイヤー先生の予告どおり、ヘロデ王が建設した建築物の遺跡をイスラエルの各所で見る事ができました。カイザリアの港湾都市、パニアス宮殿跡、エルサレム第2神殿跡、ヘロディオン要塞跡、マサダ要塞跡。これらの多くはローマ帝国の抑圧に反乱をおこして立てこもったユダヤ人の砦にもなりましたが、ローマ軍によって第2神殿は壊され、マサダ要塞では970人のユダヤ人が集団自決に追いやられ、イスラエルの国は消滅しました。残されたユダヤ人は世界に離散しましたが、約1900年を経て、聖書の預言のとおり、イスラエル国家が再建され、国々から毎年何千何万のユダヤ人が戻ってきている様子を私たちが目の当たりにしていることは驚くべきことで、聖書の真実が迫ってきます。現にあちらこちらでインフラが拡張整備され、新たな高層マンションが建設中で、人口が急激に増えていることをうかがい知ることができました。



エルサレム：ヴィアドロローサで

この旅行を機会に、事前に特別礼拝：イスラエル特集も開かれ、マイヤー牧師より、ユダヤ人と私たちキリスト教徒（ユダヤ人からすれば異邦人）の関係を学ぶことができたのも貴重でした。置換神学は誤りであること。私たちのキリスト教会は野生種の枝であり「あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。」（ローマ11:18）ということ、そして約束の民であるユダヤ人の行く末が将来の私たち

の行く末でもあること。この終末の時、ますます、ユダヤ人に、イスラエルに注目していかなければならないと感じました。

私たちの一部のグループは、夕食後ホテルから歩いて夜中静まったエルサレムの嘆きの壁を訪れました。壁の前には観光客の姿はなく黒い衣装の超正統派ユダヤ教徒数十人が、トーラーを朗読し、壁に向かって祈っていました。これまで



夜の嘆きの壁

別宗教の様子としか思っていませんでしたが、イエスをメシアと認めてはいないけれど、私たちと同じ神を礼拝しているのだと思うと、彼らのその敬虔な姿に圧倒されそうでした。

私たちが訪れた2月の後半は、雨が丁度やみ、青空のもと、グリーン絨毯と花がとても美しい最高のタイミングの時期でした。特にソコの丘からみたゴリアテとダビデが戦ったとされる谷のアーモンドの花があまりにも美しいので、久栄姉が「さくら」の替え歌をつくって「アーモンド、アーモンド..」とバスの中で合唱しました。

旅は人生の縮図ともいいますが、この旅に試練も訪れました。6日目の朝、バスの急ブレーキによってバスの中で数人が転倒し、久栄姉が靭帯を負傷し以降の旅を共にすることができなくなりました。しかし、ご本人と周辺の兄弟姉妹の助け合いの心には敬服しました。特に姉のことば：「一番かわいそうなのは、運転手さんよ、私が怪我して、心を痛めておられるから」。試練によって旅に影をさすこともあり得たでしょう。でもそんな事は全く有りませんでした。それどころか、最後の夜の感懐会では久栄姉と運転手のメナヒムさん（ユダヤ人）が微笑ましく肩を並べているのが何とも美しい状況でした。クリスチャンとユダヤ人が御国で共にイエスのもとで暮らしている将来の姿を見た！といえ大げさでしょうか。

現地ガイドの順子さんに感謝します。各聖地や現地の暮らしを毎日詳しく説明してくださいました。娘さんのエデンちゃんには出発前にいつも人数点呼を手伝ってください有り難うございました。次回団長をお願いします。

この旅を通じて始めて知り合った兄弟姉妹にも親しくしていただき、共によく食べ（ほんとうによく食べた）、語り合い（笑っていることが多かった）、共にたくさん学び合う（メモリ容量をオーバー）ことができました。クリス

チャンの兄弟姉妹との旅はほんとうに素晴らしい！とつくづく思われました。マイヤー先生、この旅の企画と、私たち23匹の羊飼いと現地では各聖地をみことばから貴重なメッセージをしていただき有難うございました。そして、いつも真ん中にいてくださった神様に感謝！







ガリラヤ湖：山上の垂訓の丘を背景に

## 私が忘れていたこと

磯村みどり

ドイツUlm在住

## イスラエル聖地巡礼の思い出

磯村寿彦

ドイツUlm在住



あの聖地旅行に加えていただいた事は、私たちにとって大袈裟ではなく今までの生涯での最高の贈り物でした。

旅行の内容の素晴らしさ、深さを今書き表す事は出来ません。それと同じく、私たちが心より感激したことは、この

45年間日本を離れていて、神さまと主イエスを中心においた日本人との交わりを忘れていた事に気づき、その素晴らしさを体中で味わうことができたことでした。

こちらでの教会での交わりと一味ちがう、生まれたままの心での自分になれたような感じでした。今までの人生、そして、この経験も、すべて神様のお考えだったと知るにいたって、またまた感謝の心で一杯です。そして、これから、もっと時間をかけて聖書に触れる生活をしなくてはと大いに反省しています。本当に本当に有難うございました。



思いがけず夢の聖地旅行が実現しいまだに熱りが冷めない日々を送って居ります。

飛行機の窓から見える雲海。雲の切れ目から忽然と現れるテルアビブ。

その時、私は未だにメシアを待ち望むユダヤの社会とは一体どんなところなのだろうかと思った。それと同時に、イエスの足跡を辿れる幸せに胸を躍らせる。

翌日からのバス旅行では早くも春の訪れからし菜、シクラメン、そしてアーモンドの花が咲き誇る。イエスが見ておられた光景だと思いをはせる。イエスが愛を語ったゲネザレ湖。エルサレムではパッションを控えた受難の道。ヴィア・ドロローサ。

マイヤー先生はじめ素敵な日本人教会の交わりに入れていただいた事は、一生の思い出となりました。



カイザリアの円形劇場でアメージンググレースを賛美

